

大学合格を目指すみなさんへ

きっとあなたも英語が好きになる

英語が得意になるための

4つのヒント

大学合格を目指すみなさんへ

きっとあなたも英語が好きになる

英語が得意になるための

4つのヒント

「英語が得意になるための4つのヒント」

きっとあなたもできるはず！

はじめに

「もっと英語の成績が伸びれば、本当に行きたい学校に手が届くのに」と感じている人は多いと思います。

でも現実には、勉強してもなかなか成績が上がらないと悩んでいる方も本当にたくさんおられると実感しています。長文をたくさん読んだり、単語をがんばって覚えたり、一生懸命やっているのになかなか成績が上がらない……。いったいなぜでしょう？

本屋さんに行けば受験参考書は山のように積まれています。でも、具体的にどんな参考書や問題集、単語集を選べば効果的なのか、またどんな使い方をすればいいのかなど、なかなか自分ではわからないことが多いのではないのでしょうか。

そういった様々な「英語学習の悩みや不安」に応えるために、私はこの小冊子を書きました。

私は高校卒業後、1年浪人しましたが、そのころ通っていた予備校の先生の素晴らしい授業に感銘を受けたことがきっかけで、英語が大好きになり、実際に大きく成績が伸びたことを今でもよく覚えています。

社会人になってからも、幸い英語を使う職場で働いていたこともあり、ますます英語が好きになりました。その後転職し、今は英語講師として、塾や学校現場で様々な中高生の皆さんと接するなかで、いっ

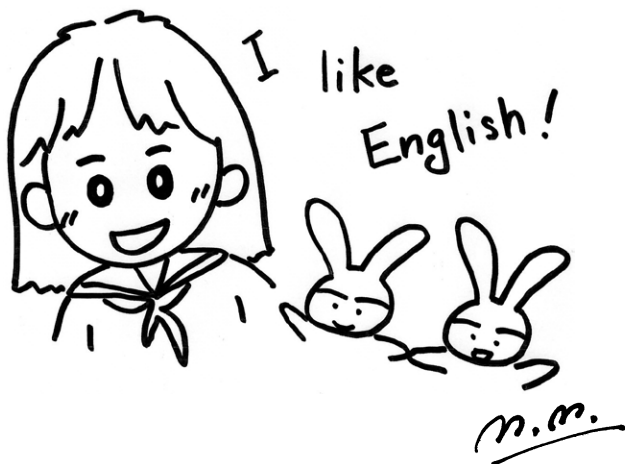
たいどうすればみなさんにとって英語が「好き」で「得意な科目」になるだろう、ということをはたすら考えてきました。勉強するからには、結果が出たほうがうれしいし、またやる気も沸いてきますよね。皆さんの気持ちがよく分かるからこそ、私は教える立場として「結果」にこだわります。

予備校時代の先生の教えを原型として、どういうカリキュラムで学習を進めていけば皆さんが希望する大学に合格できるだけの力をつけてもらうことができるか、また英語の文章を読んだり書いたりすることが本当に楽しいと感じられるようになるかを研究し続けてきました。そうやって、色んな生徒さんの悩みを聞き、苦勞をともに分かち合いながら、試行錯誤の末ようやく出来たのが、今あなたが手にして下さっている小冊子なのです。

この小冊子のタイトルが、「好き」そして「得意」であることに興味をもった方がいらっしゃるかもしれません。

その理由をお話しましょう。これは英語の学習に限ったことではありませんが、何かを上達するためには、まずその対象を「好き」にならないことには始まりません。嫌いなままでがんばってみても、きっと長続きはしないでしょう。「好きこそものの上手なれ」ともいいます。

みなさんが、いつのまにか「嫌いになってしまった英語」に再び興味をもち、自ら進んで学びたいと思えるようになり、それが皆さんにとって一生の財産になればという願いを込めて、この小冊子を書いています。



この小冊子では私が現場で中高生のみなさんと触れ合うなかで発見してきた、皆さんが抱くであろう素朴な疑問に対する答えや、効果の高い学習法について、4つのヒントにまとめました。

とてもこの小冊子のなかで、私がお伝えしたいこと全てを書くことはできませんが、自身の経験と研究のエッセンスを4つのヒントに凝縮したつもりです。

この小冊子が、みなさんの大学合格をはじめ、将来の夢の実現のきっかけとなればこれ以上の喜びはありません。

森岡イングリッシュスクール

森岡 光生

英語が得意になるための4つのヒント

はじめに

ヒントその1

「どうすれば、単語が覚えられるようになりますか？」

ヒントその2

「英語の成績を上げるにはどうしたらいい？」

ヒントその3

「かしこい自習のやり方は？」

ヒントその4

「塾でがんばっていれば学校の勉強は手を抜いてもいい？」

おわりに



ヒントその1

「どうすれば、単語が
覚えられるようになりますか？」



ヒントその2

「英語の成績を上げるには
どうしたらいい？」



ヒントその3

「かしこい自習のやり方は？」



ヒントその4

「塾でがんばってれば
学校の勉強は手を抜いてもいい？」



ヒントその1 「どうすれば、単語が覚えられるようになりますか？」

これは、皆さんから聞かれる質問の多さでは「ダントツナンバーワン」です。

本当に皆さんが単語を覚えることに苦労しているのがよく分かります。

では、いったいどうすればいいのでしょうか？ 私なりの答えを書いてみますね。

まず「新しい単語を覚える」とき、皆さんはどんなやり方をしていますか？

単語集に載っている英単語の「日本語の意味」が書いている部分を赤いシートで覆って、頭のなかで日本語の意味を思い出す。そして合っているかどうか確認する。

あるいは、手書きで単語カードを作ってウラに日本語の意味を書き、それを繰り返しめくりながら日本語の意味を思い出す。

こんな感じでしょうか？ もちろん、これが効果のない方法だとは決して思いません。

でもひょっとして、もっと効率よく単語を覚える方法があるとしたら・・・。



単語を覚えるときに皆さんは**英語を声に出して読んでいますか？**

あるいは、**単語集についているCDを聞くことはありますか？**

「うーん。発音記号がよく分からないし、日本語の意味さえ分かればいいから声には出してないなあ。」

「音を聞くよりも、しっかり本を開いて目で見て覚えたほうが確実だと思う。」

といった声が聞こえてきそうです。

ですが、ここでひとつ大事なこと。

私が今まで見てきた生徒さんのなかでも、2000~3000という膨大な数の単語を短期間で覚えることができたという生徒さんの勉強法を紹介します。

不思議なことに、彼らのほとんどは「**単語集についている附属のCD**」をすり減るくらい、繰り返し聞いたと口をそろえて言います。

もう耳が覚えてしまって、こびりついて離れないくらい「音を聞いた」と。

もちろん意味が分からないものを何度繰り返し聞いても、わけのわからない「呪文」のようなものです。

では具体的にどんなことをしていたのか？



実はこの方法は、科学的にも理にかなっていません。

目で見ただけの情報（視覚）よりも、耳から聞いて覚えた情報（聴覚）のほうが、実は記憶に定着するのが早く、その後も長期間にわたって忘れることがありません。テスト本番中に、忘れていた単語を「ふっと思いつける」可能性も高いのです。ただし、「**何度も繰り返して覚えること**」これが重要です。

具体的には、駿台文庫から出版されている「システム英単語Ver.2」（CD別売）または、Z会の「音読英単語」（CDつき）がおすすです。載っているフレーズや例文をまるまる聞いて覚える努力をしてください。

皆さんも経験はありませんか？

何度も見返した小学校の卒業アルバムの「2列目、左から4番目は誰？」と聞かれても即座には答えられないでしょう。ところが昔大好きで何度も聞いたり、カラオケで歌った曲や、何度も耳にしたCMソングなどはすぐ鼻歌が歌えるのではないのでしょうか。

赤ちゃんがやがて幼児になり言葉を覚えるのも、まず周りにいる人の話す言葉（音）をたくさん聞いて、そのあと自分で声に出して次第に話せるようになります。幼稚園に通う5歳児が、「ひらがなや漢字はだいたい覚えたけど、しゃべるのはイマイチ苦手なんだよなあ」ということは、通常ありえません。



単語の暗記にかぎらず、言語を習得することはまず「音を聞き、真似をして声に出す」これが基本です。

そしてなによりも重要です。皆さんの学習の中に、ぜひ取り入れてみてはいかがでしょうか。





ヒントその1

「どうすれば、単語が
覚えられるようになりますか？」



ヒントその2

「英語の成績を上げるには
どうしたらいい？」



ヒントその3

「かしこい自習のやり方は？」



ヒントその4

「塾でがんばってれば
学校の勉強は手を抜いてもいい？」

ヒントその2 「英語の成績を上げるにはどうしたらいい？」

私はこんなふうに考えています。

$$\text{質（勉強のやり方・方向性）} \times \text{量（勉強した時間や労力）} \\ = \text{成績の伸び幅}$$

数字に置き換えてみましょう。

とりあえず「量（勉強時間）」は100とします。

すると

「質」の部分が 1の場合	→	成績の伸び幅は「100」
「質」の部分が 10になったら	→	成績の伸び幅は「1000」
「質」の部分が 20になったら	→	成績の伸び幅は「2000」

簡単な計算式ですね。

でも本当なんです。その成果は大きく違ってきますね。

質とは、がむしゃらに勉強を始めるちょっとその前に(笑)、
「じっくり作戦を練って勉強法を考えること」といったところでしょうか。

作戦を練るためにはまず、皆さんの得意・不得意分野をしっかり見極めることから始まります。



単語を覚えていないのか？ それとも文法に自信がないのか？ 長文が苦手なのか？ といったことを冷静に分析することで、どんな勉強をしていけばいいのかがはっきりしてきます。

これは、皆さん自身ではっきり自覚している場合と、まわりの人から指摘されてはじめて気づく場合の2つのパターンがあります。仮に皆さんが文法に苦手意識を持っていても、私が毎回の模試のデータを分析させてもらうと、「実はそんなに文法は苦手じゃなかった」とか、逆に「実は苦手だった」といったことも十分にありうるのです。

まず「今の自分は、いったい何に力を入れて、優先的に勉強すればいいか」をしっかりと見極めることです。これはなかなか自分ひとりではできないですよ。

ぜひ皆さんがお世話になっている学校の先生や塾の先生に「模試の結果」をみてもらって、「成績の健康診断」をしてもらうことをおすすめします。

つまり学校や塾の先生の役割とは、日々の授業やアドバイスを通じて

計算式の左側 つまり「質」の部分をいかに高めてあげられるか

これが非常に大きいと私は思っています。

「量」の部分は、「皆さんがどれだけがんばれるか？」にかかっています。

先生の立場で「もっと勉強しろ！」と皆さんにハッパをかけるのは簡単ですが、皆さんの「成績」に結びつく部分はそれほど大きくはないでしょう。

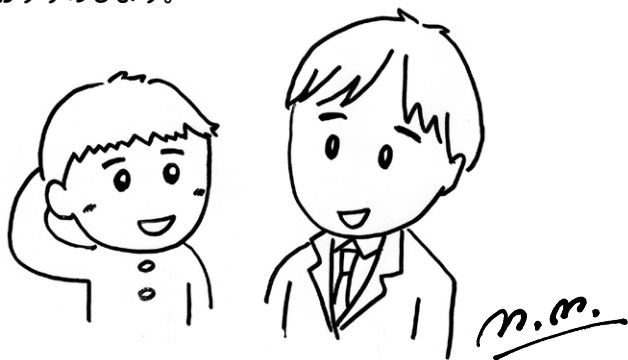
（もちろん皆さんを元気づけたり励ましたりという、お互いの信頼関係はとても大事だと思っています。）

かんたんにまとめると、

- ① 勉強のやり方が間違っている、か
- ② 勉強の量が足りない、か
- ③ その両方

が原因で成績が上がらないのです。

ぜひ一度、ご自身の「英語力健康診断」をしてもらうことをおすすめします。





ヒントその1

「どうすれば、単語が
覚えられるようになりますか？」



ヒントその2

「英語の成績を上げるには
どうしたらいい？」



ヒントその3

「かしこい自習のやり方は？」



ヒントその4

「塾でがんばってれば
学校の勉強は手を抜いてもいい？」



ヒントその3 「かしこい自習のやり方は？」

本屋さんに行けば、山のように受験参考書や問題集が置いてあります。

「学校や塾でもたくさん宿題が出るけれど、他にも何かやっておかないと不安だし。」

こんな気持ちになることはありませんか？

「英語」とひとこと言っても、やることはたくさんあります。

単語集、文法問題集、長文問題集、、、といった具合に。

ひとつずつみていきましょう。

- ①単語 … これは、**ヒントその1**で具体的に「おすすめ単語集」も書いてありますのでそちらをご覧ください。単語力（語彙力）は極めて重要です。早めの準備をしておいたほうがいいでしょう。

ひとつひとつ単語を覚えていくことは、確かに大変な作業だと思います。

でも、**まずはがんばって「500語」覚えてみてください。**「きつい」という人は300でもいいと



思います。するとどうなるか？

皆さんが模試を受けたときに、「覚えた単語に出会う」可能性がぐっと高まります。

「あ、この単語、この前覚えたやつだ！」

これは結構うれしいものです。仲良くなった友達に偶然街中で出会ったような「親しみ」を感じるかもしれません。もちろん1000語、1500語と知っている単語が増えていくとぐっと長文が読みやすくなります。

そして、どの大学の入試問題でも「長文」の配点が一番高いことは明らかです。

きっとみなさんの苦勞がむくわれるはずですよ。
がんばってください！

- ②文法 … 文法については、だいたいどこの高校でも1年生のあいだに、全範囲を一通り学習すると思います。学校の授業にしても、家で勉強するにしても、**高校1年生のあいだは文法の基礎固めをしっかりとしておきたいものです。**

おすすめの参考書は「山口英文法講義の実況中継（上・下）」（語学春秋社）です。



少し大きい本屋さんならだいたい置いてあります。

ただし、高2高3と大学受験が近づくにつれて、文法の学習(文法専門の問題集を解くこと)が、「自分にとって本当に必要かどうか？」これは少し慎重に考えたほうがよいと思います。**まず皆さんにしっかり意識しておいてほしいことは、「文法問題を解くために」文法を学ぶのではない、ということ**です。文法を学ぶ目的は、あくまでも「英語の文章を読んで書けるようになる」ためです。

でも、こんな声も聞こえてきそうですね。

「そうはいつでも入試に文法問題は出るし、解けるようになるためにはやっぱり必要なんじゃないの？」

そんな疑問に対して、今年(2008年1月実施)のセンター試験を見てみましょう。

2008年1月実施のセンター試験(筆記200点満点)のなかで、純粹に「文法知識」が問われている問題の配点ウエイトは…わずか20点です。(全51問中10問出題)

センター試験だけでなく、私大や国公立の2次



試験でも「実用的な語彙力重視」の出題傾向が年々強まっています。

文法の問題集を解いてマルつけをする学習をしていると、「勉強をやったような」「誤った達成感」に陥ってしまう危険性があります。

(少し厳しい言い方かもしれませんが)

単語を覚えたり、長文に取り組んだりするよりも、文法の問題集のほうが「クイズ感覚でラク」なのです。果たして、今の自分にとってどれだけの効果があるのか？

自分はほんとうに文法知識がないから長文が読めない。だから「文法力をつけたい」のか？

今一度、自分に問いかけてみてください。

③長文問題 … ここまで書いてきたように、長文問題が解けるようになるには「語彙力の強化」は欠かせません。

でも、「単語を覚えればそれだけで大丈夫？」
いえいえそんなに甘いものではありません。
でも大丈夫。ちゃんと解決策をご説明します。



ところで「英語の長文」ってそもそも何でしょう？

1. 最大の単位は「文章（パッセージ）」

文章には、その論理構成など押さえておくべきルール（読み方）があります。それは逆の立場（筆者の立場）からいえば、文章を書く際のルールやマナー。

これを理解しておくことが、読者（皆さん）の立場でも大きな威力を発揮します。

2. その次の単位は「パラグラフ（段落）」

しかし英語の「パラグラフ」は、日本語の「段落」とは全くコンセプトが違います。

ひとことで言うと、**英語の場合は「1つのパラグラフで、筆者が言いたいことはズバリひとつ！」**。あとの部分はすべて、その具体例であったり筆者がその理由を説明したりして、「言いたいこと（キーセンテンス）」をサポートする構成になっています。

とでも、この紙面を使って説明しきれないのが残念ですが、「パラグラフ」には「はっきり明確な書き方（読者にとっては読み方）のルール」があります。**このあたりに慣れてくると、要領よく**



ポイントを捉えた英文の読み方が出来るようになります。

3. さらに小さい単位は「文（センテンス）」

皆さんは、模試の下線部和訳の問題で「4～5行も線が引いてあって、なんて長い文なんだろう。とても日本語に直せないよ。。」と感じた経験はありませんか？

最初の単語（主に主語）から始まり、ピリオドで終わるまでが「文（センテンス）」ですが、これも「極めて論理的かつ科学的な構造（ルール）」があります。

決して、フィーリングやセンスに頼って読むものではありません。

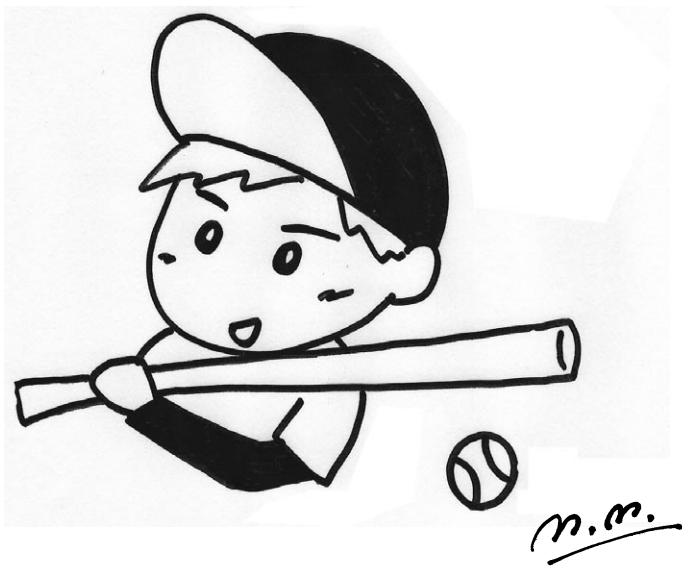
どんなに1文が長くても、しっかりとその文構造を捉え、意味を把握する力をつければ、誰でも英文がしっかり読めるようになります。

上記1～3の観点で、解説が詳しく書かれている問題集を選んで、何度も繰り返しやるのが大事だと思います。あれこれ色々な問題集に手を出すよりも、ひとつひとつ解説を読んでしっかり納得しながら、1冊の問題集を繰り返しやるほうがはるかに効果的です。



たしかに骨の折れる勉強法ではありますが、
きっと「がんばれば報われる」はずです。
どうぞ、根気強く取り組んでください。

ちなみに今年のセンター試験（2008年1月実施）の長文問題は、筆記200点満点中132点。（ピジュアル読解を含む） やはり重要ですね。





ヒントその1

「どうすれば、単語が
覚えられるようになりますか？」



ヒントその2

「英語の成績を上げるには
どうしたらいい？」



ヒントその3

「かしこい自習のやり方は？」



ヒントその4

「塾でがんばってれば
学校の勉強は手を抜いてもいい？」



ヒントその4 「塾でがんばっていれば学校の勉強は手を抜いてもいい？」

もちろん、いけません（笑）

でも・・・、こんなふうに毎日を過ごしているひとは案外多くないですか？

なぜ、学校の勉強が大事なのか？ よく考えてみましょう。

大手予備校や塾というのは、皆さんから授業料をいただいで経営が成り立っています。

ということは、「学校と全く同じ内容」をやっていたのでは存在価値はありません。

だからどういうことを考えるのかというと、「学校では習っていない内容」をいかに授業で伝えるかということに重きを置いているのです。

皆さんにとっては「学校ではぜんぜん教えてくれないことを塾なら教えてもらえる！」という印象を受けることになるかもしれませんね。

でもその背景には、「最低限の基礎知識は学校で勉強していて当然。」という暗黙のルール（？）が、塾の側にはあります。（もちろん基礎的な内容をしっかり教えてくれる塾もたくさんありますが。）



私自身も高校の先生をやっていた経験から、

「毎日の学校の授業で、生徒に伝えたいことを100パーセント話すのがいかに難しいか」がよく分かります。

時間が足りないのです。という意味で、学校の先生方の日々のご苦労も理解できます。

まとめると・・・

学校の授業は、基礎基本をしっかり定着させるためになく
てはならないもの。

家づくりに例えると、「土地の基礎工事」や「建物の1階部分」の建築にあたります。

この土台がしっかりしていないと・・・結果は明らかですね。

先に述べたとおり、多くの塾は見栄えのよい立派な2階部分（学校の上積み）を建築しようとしています。

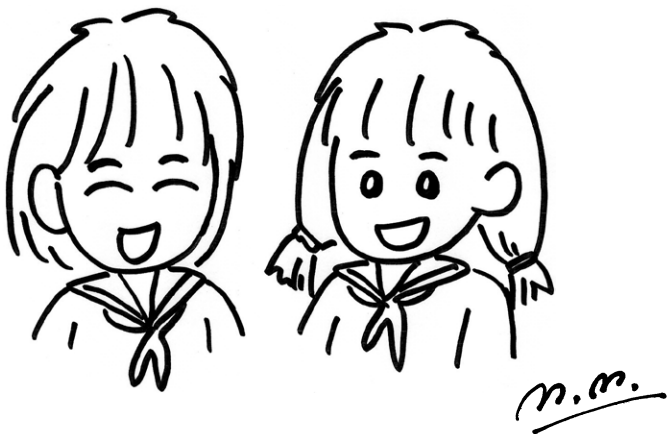
だからこそ、「土台づくりの大切さ」がよく分かっていただけだと思います。

また、みなさんの学校でも補習や講習といった「教科書に



沿った授業以外（2階づくり）のJ 授業を熱心にやっ
てくださる先生も多いでしょう。

皆さんが学校の授業と塾の授業をうまく組み合わせて、
最大の効果が発揮できるように学習していくことが大切だとい
うことをぜひ理解しておいてください。



おわりに

この小冊子を最後まで読んでくださってありがとうございました。

紙面の制限もあり、皆さんにまだ伝えきれていないことがたくさんあります。第2号をそのうち発行したいと思っていますので、楽しみにしていてくださいね。

私自身の高校時代といえば、実はどの科目も飲み込みがおそく、なかなか成績が上がらずに苦労していました。

数学などは、模試の「2時間（120分）」がどれほど長く感じたことか、今思い出しても苦い思い出です。

「はじめに」でも書きましたが、高校卒業後に予備校で出会ったひとりの先生から私の運命は変わったといっても過言ではありません。「英語を学ぶことは、こんなに楽しいことなんだ！」と思えるようになってからは、どんどん成績が上がりました。「人との出会い」が大きく人生を変えることをはじめて経験した瞬間でした。

だからこそ今、私が10代のころに感じた「勉強することの面白さ」、これをぜひ一人でも多くの若い人たちと分かち合えればよいなと思っています。

もちろん、「成績・偏差値が上がること」「希望した大学へ進学できること」これが皆さんにとっての切実な願いであることは十分承知しています。教える立場として、言い訳はしないで「結果」をもってお応えしたいと強く思っています。

やがて皆さんが大学に進み、社会人になった後も、「やっぱり英語が好き」と思えるような「ささやかなきっかけ」を皆さんに届けられたらいいなと願いながら、日々授業をやっています。



最後に、

「人との出会い」・・・これが学校や塾で授業をするなかでの、最大の喜びかもしれません。

どんなにイヤなことがあっても、たまには腹が立つことがあっても、皆さんの笑顔や熱心に勉強する姿に接することで、むしろこちらが元気をもらっています。

いつか、皆さんと実際にお会いできる日があることを楽しみにしています。

また、皆さんの学校生活が充実したものであることを心より祈っています。

Do Your Best !

当スクールにご関心をお持ちの方は、下記連絡先まで気軽にお問い合わせください。

〒720-0061
広島県福山市丸之内1丁目3番19号 丸之内ビル3F
森岡イングリッシュスクール
代表 森岡 光生

(TEL) 084-926-5625
(メールアドレス) toeicman@gmail.com
(携帯用メルマガ)
「目指せ志望校合格！ 1日1問英単語ミニテスト」
配信中（無料）

〔登録方法〕

1. <http://lmag.jp/>にアクセス
2. メルマガID「10196」を入力
3. 1日おきに「ミニテスト」があなたの携帯メールに届きます。

著者 森岡 光生（もりおか みつお）

大阪大学外国語学部（旧大阪外国語大学）卒業後、1992年三井住友海上入社。海外関連の営業に携わり、2004年退社。現岡山大学トイック講座担当講師。広島、岡山県内の塾、学校での勤務経験を経て、現在に至る。

高校生の大学受験指導、英語の資格試験（英検・トイック）対策指導を展開。

英語が得意になるための4つのヒント

発行日 2008年10月1日 初版1刷

著者 森岡 光生

発行 森岡イングリッシュスクール
〒720-0061 広島県福山市丸之内1丁目3番19号 丸之内ビル3F
電話番号 084 - 926 - 5625
メールアドレス toeicman@gmail.com

イラスト：森岡 三佳子

表紙デザイン・制作・印刷：(株)ノスメディア URL <http://www.nosmedia.co.jp>

—禁無断転載—

